

## 【報告】

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究

「人類学におけるマイクロ・マクロ系の連関」第2回公開セミナー

「『坪井正五郎』の著者川村伸秀氏を囲んで」

日時：

2014年1月23日（木）15時～19時

場所：

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3階マルチメディアセミナー室（306号室）

著者：

川村伸秀氏

コメンテーター：

佐々木史郎（国立民族学博物館）、清水昭俊（AA研フェロー）、関雄二（国立民族学博物館）、山路勝彦（関西学院大学）

ディスカッサント：

真島一郎（司会）、鳥越久美子（西南学院大学大学院）、中生勝美（桜美林大学）、三徳洋一（弘文堂）、太田八紘（市井人）、西井涼子、三尾裕子、栗原浩英、高島淳、中見立夫、佐久間寛、藤野陽平（以上、AA研）

内容：

本公開セミナーの合評対象となったのは、昨年9月に上梓された川村伸秀氏の単著『坪井正五郎——日本で最初の人類学者』である。

当日の会場では、国内の主要各紙に掲載された上記著作の書評（『毎日新聞』2013年11月10日、張競評；『朝日新聞』2013年11月17日、出久根達郎評；『日本経済新聞』2013年11月24日、川村邦光評）、および『図書新聞』3138（2013年12月14日）号に掲載された対談記事が、参考資料として出席者に配付された。

セミナーでは、はじめに川村氏が、全18章からなる本書の構成につき、パワーポイント資料、および坪井家・佐渡家・長崎家・荒井家・箕作家の家系図資料をまじえながら概要説明を行った。つづいて、下記4名のコメンテーターによる、本書へのコメント発言がなされた。

1. 佐々木史郎氏（国立民族学博物館） アイヌ関連の視角によるコメント
2. 清水昭俊氏（AA研フェロー） 日本人類学史の視角によるコメント
3. 関雄二氏（国立民族学博物館） 考古学・先史学史の視角によるコメント
4. 山路勝彦氏（関西学院大学） 「学術人類館」史の視角によるコメント

いずれのコメントも、坪井正五郎が生きた時代状況に前後する民族・学史・社会史的背景を軸とした、詳細かつ濃密な事実関係にもとづく発言となり、出席者全員をまじえて既定の時間いっぱいまで活潑な討論が展開した。

当報告の内容は著者の著作物です。Copyrighted materials of the authors.